

InstallShield 2014 Express Edition リリースノート

(オリジナル リリース 2014 年 5 月、SP1 を含むアップデート リリース 2014 年 12 月)

はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer ベースのインストールをオーサリングするための業界標準ツールです。InstallShield 2014 Express Edition では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能と強化内容が提供されています。

これらのリリース ノートの更新内容を含む、InstallShield 2014 Express Edition についての最新情報は、InstallShield Express Edition リリースノート オンライン版を参照してください。

SP1 に含まれる変更点 (2014 年 12 月)

InstallShield 2014 SP1 のインストールは、フレクセラ・ソフトウェア製品 & ライセンス センターから取得できます。手順については、[ダウンロードとライセンスについて](#) ページの InstallShield リンクを参照してください。

Internet Explorer 10 および 11 用の新しい定義済みシステム検索

InstallShield には、ターゲット システム上で Internet Explorer 10 または Internet Explorer 11 を確認する新しい定義済みのシステム検索が含まれています。インストールまたはプロジェクトでこれらのバージョンのどちらかが必要な場合、[要件] ビューまたはプロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページを使って、これらのシステム検索の 1 つをプロジェクトに追加することができます。エンド ユーザーがインストールを起動すると、Windows Installer はターゲット システムの要件が満たされているかどうかを確認します。要件が満たされていない場合、インストールでシステム検索用に定義されているエラー メッセージが表示されます。

ポルトガル実行時文字列の更新

ポルトガル語 (ブラジル) および ポルトガル語 (ポルトガル) のデフォルトの実行時文字列は、1990 年のポルトガル語新正書法に基づいて更新されています。この新正書法は、2009 年以来 6 年間の移行期間を経て、2014 年の終りに完全実施されます。

この変更により、IOJ-1719546 が解決されます。

IOA-000079064、IOA-000079310

InstallShield は今回より、プロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページ、または [要件] ビューで Windows の異なるバージョンを選択することができます。以前、3 つめのチェック ボックスを選択しようとする、InstallShield がエラー ("LaunchCondition' テーブルの 'Condition' フィールド": 文字列は列の定義で指定された長さを超えています。) を表示し、3 番目のチェックボックスを選択することができませんでした。

IOJ-1662589、IOJ-1664180、IOJ-1664871、IOJ-1667078

特定のファイルがプロジェクトに含まれているか、プロジェクトの一部であるマージ モジュールに含まれている場合、ビルド時に InstallShield がクラッシュする問題、ならびに .NET 依存関係スキヤンが失敗する問題が解決されました。

IOJ-1719380

Microsoft SQL Server 2014 Express RTM (x86) および Microsoft SQL Server 2014 Express RTM (x86 & x64Wow) をインストールする InstallShield 前提条件は、今回より正しいファイルをダウンロードします (それぞれ、SQLEXP_x86_ENU.exe および SQLEXP32_x86_ENU.exe)。さらに、これらの前提条件の条件は、適切なプラットフォーム上で前提条件ファイルが起動されるように更新されています。

IOJ-1720244

Setup.exe 起動ツールが、特定の状況下でクラッシュする問題が解決されました。以前、例えばインストールが正常に完了した後、またはエンド ユーザーがキャンセルした後にクリーンアップ タスクを行うような稀な状況下で、Setup.exe がクラッシュすることがありました。

InstallShield 2014 オリジナル リリース バージョン (2014 年 5 月) の新機能

新しい .NET Framework 4.5.1 用 InstallShield 前提条件

InstallShield には、プロジェクトに追加可能な新しい .NET Framework 関連の InstallShield 前提条件が含まれています:

- Microsoft .NET Framework 4.5.1 (完全版)
- Microsoft .NET Framework 4.5.1 (Web インストーラー)

これらの前提条件は、サポートされているターゲット システムに、.NET Framework 4.5.1 をインストールします。

Web 前提条件には、インターネットへの接続が必要です。この前提条件は、必要に応じて、必須の再配布可能ファイルをダウンロードします。完全な前提条件は、インターネットへの接続が不要なスタンドアロンインストールです。

Microsoft SQL Server 2014 の前提条件

InstallShield には、プロジェクトに追加可能な新しい SQL Server 2014 関連の InstallShield 前提条件が含まれています:

- Microsoft SQL Server 2014 Express RTM (x64)
- Microsoft SQL Server 2014 Express RTM (x86 & x64Wow)
- Microsoft SQL Server 2014 Express RTM (x86)
- Microsoft SQL Server 2014 Express RTM LocalDB (x64)
- Microsoft SQL Server 2014 Express RTM LocalDB (x86)

これらの InstallShield 前提条件は、サポートされているターゲット システムにテクノロジーがインストールされます。

Microsoft Visual C++ 2012 Update 4 用の新しい InstallShield 前提条件

InstallShield には、プロジェクトに追加することができる以下の新しい InstallShield 前提条件が含まれています:

- Microsoft Visual C++ 2012 Update 4 再配布可能パッケージ (x86)
- Microsoft Visual C++ 2012 Update 4 再配布可能パッケージ (x64)

これらの前提条件は、サポートされているターゲット システムに様々なテクノロジーをインストールします。

サブフォルダーにサポート ファイルを含める機能

InstallShield では、今回より、サポート ファイル用のカスタム フォルダー構造を指定することができます。[セットアップ ファイル] ビューのノードの下にサブフォルダーを追加するには、そのノードを右クリックしてから [新しいフォルダー] をクリックします。サブフォルダーが追加され、必要に応じてその名前を変更することができます。ネストされたフォルダー構造を追加することもできます。ファイルをサブフォルダーに追加するには、右側のペインを選択してから、[ファイルの挿入] をクリックします。実行時、インストールがサポート フォルダーとファイルをターゲット システム上の一時ディレクトリである SUPPORTDIR にコピーして、製品のインストール処理中に使用できるようにします。サポート フォルダーとファイルは、インストールが完了すると削除されます。

この機能は IOA-000031237 および IOC-000057723 の問題を解決します。

ファイルとフォルダーの削除に関するサポート

InstallShield では、実行時にターゲット システムから削除するファイルとフォルダーを簡単に指定することができるビルトイン サポートが提供されています。このファイルとフォルダーの削除機能は、アプリケーションによって作成されるファイルの削除など、インストールが追跡を行わない処理に使用すると便利です。

ファイルまたはフォルダーの削除は、次のイベントの 1 つにスケジュールできます：

- ファイルまたはフォルダーの機能がインストールされる時
- ファイルまたはフォルダーの機能がアンインストールされる時
- ファイルまたはフォルダーの機能がインストールまたはアンインストールされる時

削除されるアイテムがフォルダーの場合、そのフォルダーが空の場合のみ削除されます。

プロジェクト内のファイルまたはフォルダーの削除を構成するには、[ファイル] ビューを使います。このビューで、削除するファイルまたはフォルダーを含むフォルダーを選択します。次に、[インストール先コンピューターのファイル] ペインを右クリックしてから [ファイルの削除を追加] をクリックします。InstallShield が表示する [プロパティ] ダイアログ ボックスで、使用可能な削除の設定を構成します。

この機能により、IOA-000055322 の問題が解決されました。

InstallShield 2014 オリジナル リリース バージョン (2014 年 5 月) の強化機能

実行時に [使用許諾契約] ダイアログで [印刷] の選択肢を提供できる機能

[使用許諾契約] ダイアログの [印刷] ボタンの機能が強化されました。エンドユーザーが [印刷] ボタンをクリックしたときにデフォルト プリンターに直接印刷する代わりに、今回より、印刷選択ダイアログ ボックスが開きます。

この強化により IOC-000047168 が解決されます。

レジストリ関連のシステム検索における 64 ビット サポート

システム検索ウィザードを使って、Windows Installer が実行する検索を定義できます。Windows Installer は、ターゲット システム上にある特定のファイル、フォルダー、レジストリ キー、または .ini の値を検索できます。システム検索ウィザードのレジストリ関連のパネルには、64 ビット ターゲット システムのレジストリの 64 ビット領域をチェックするかどうかを指定できる新しいチェック ボックスが追加されました。

この強化により IOA-000083104 が解決されます。

新しい FlexNet Connect 13.06 再配布可能ファイル

InstallShield はプロジェクトで FlexNet Connect 13.06 をサポートします。InstallShield の [アップデート通知] ビューを使って、2 つの FlexNet Connect 13.06 マージ モジュールうち、いずれかが含まれています (Common Software Manager が含まれているマージ モジュールと、含まれていないマージ モジュール)。

重要な情報

InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールし、アクティベーションを行わずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、ナレッジベース記事「[Q200900](#)」を参照してください。InstallShield のアクティベーションを行うと、機能制限が解除されます。

InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

InstallShield のインストールは、次のいずれかの方法で取得できます:

- InstallShield DVD をお持ちの場合、インストールは DVD に含まれているので DVD ブラウザーを使って見つけることができます。
- InstallShield インストールは、「[InstallShield のダウンロードおよびのライセンスの使用](#)」に記載されている手順でダウンロードが可能です。

追加のインストール、たとえば InstallShield に含まれている InstallShield 前提条件の再配布可能ファイルや .NET 言語パック前提条件ファイル (.prq) も DVD に収納されており、同じ場所からダウンロードすることができます。

InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2014 の Premier、Professional、または Express は、同時に同じシステム上に 1 つのエディションのみをインストールできます。また、InstallShield 2014 DIM Editor を、InstallShield 2014 の任意のエディションが搭載されている同じマシン上にインストールすることはできません。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2014 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2013 Express Edition 以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2014 Express Edition にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2014 Express Edition プロジェクトと、InstallShield 2013 Express Edition 以前のバージョンから InstallShield 2014 Express Edition にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield 2014 Express Edition を使って以前のバージョンで作成されたプロジェクトを開くと、InstallShield 2014 Express Edition プロジェクトを新しいバージョンに変換するかどうかを質問するメッセージボックスが表示されます。[変換する] を選択すると、変換が行われる前に、例えば .774 というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップコピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .774 を取り除いてください。InstallShield 2014 Express Edition プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできないので注意してください。

InstallShield Express Edition バージョン (InstallShield 2013 Express Edition 以前、InstallShield 12 Express Edition 以前、および InstallShield Express 5 以前) で作成した既存プロジェクトを InstallShield 2014 Express Edition にアップグレードすることができます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2014 Express Edition にアップグレードすることはできませんの注意してください。

InstallShield 2014 オリジナル リリース バージョン (2014 年 5 月) のバグ修正

IOA-000080617

一部のビューでグリッドのアイテムを選択してからフォーカスを変更したとき、今回より、選択されたアイテムが濃い色で表示されて、選択されていることが判別しやすくなりました。

IOA-000081185

既存の Microsoft SQL CE 3.5 SP2 用の InstallShield 前提条件は、64 ビット ターゲット システム上で SQL CE 3.5 SP2 をインストールするように変更されています。以前、この前提条件の条件は、32 ビット システム上にのみ SQL CE 3.5 SP2 をインストールするように構成されていました。また、新たに Microsoft SQL CE 3.5 SP2 (x64) の InstallShield 前提条件が追加されました。この前提条件は 64 ビット ターゲット システム上に SQL CE 3.5 SP2 をインストールします。

IOA-000082406

プロジェクトに msvcrt.dll などの特定のファイルを追加したときに InstallShield がクラッシュする問題は解決されました。

IOA-000084391

Microsoft Visual C++ 2012 Update 1 再配布可能パッケージの InstallShield 前提条件の条件に、Windows XP のサポートが追加されました。以前、これらの前提条件は、Windows XP ベースのシステム上にインストールされませんでした。

IOA-000084630

[機能] ビューの "条件" 設定にある省略記号ボタンをクリックすると InstallShield で表示される [条件ビルダー] ダイアログ ボックスに、Windows 8 および Windows Server 2012 が追加されました。

IOA-000124532

.spc 及び .pvk ファイルを指定して、ビルド時にリリースのデジタル署名を行うとき、別のアプリケーションがフォーカスされた場合でも、パスワードが Signcode.exe (ビルド時に必要に応じてファイルにデジタル署名を行うツール) に正しく渡されます。以前、別のアプリケーションにパスワードが書き込まれ、Signcode.exe の証明書パスワードのプロンプトが開いたままとなりました。

IOB-000063651

拡張可能な文字列値を含むレジストリ エントリを .reg ファイルにエクスポートしてから、プロジェクトにインポートし直すとき、予期しないレジストリ エントリが作成されることがなくなりました。

IOC-000089095

InstallShield では、ソースが読み取り専用の場所にある InstallShield 前提条件について、誤ってビルド エラー -1007 「ソース 'NameOfFile' をターゲット 'FileLocation' にコピーできません」 がレポートされることがなくなりました。以前、たとえば、[リリース] ビューの "圧縮" 設定で [圧縮] が選択されているときに、ターゲットの場所が [Setup.exe から抽出] ではない場合など、特定の状況下でこのビルドエラーが発生しました。

IOC-000090875

Setup.exe が一時ディレクトリにファイルを抽出中にエラーが発生したとき (たとえば、ターゲットシステムに十分な空き容量が無かった場合)、実行時エラー 1152 が発生した場合、今回よりエラーメッセージに抽出できなかったファイル名がリストされます。

システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

InstallShield を実行するシステムの要件

プロセッサ

Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)

RAM

256 MB の RAM (512 MB 推奨)

ハードディスク

500 MB 空き領域

ディスプレイ

1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

オペレーティング システム

Windows Vista
Windows Server 2008
Windows 7
Windows Server 2008 R2
Windows 8
Windows Server 2012
Windows 8.1
Windows Server 2012 R2

権限

システムの管理者権限

マウス

Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス

InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)

Microsoft Visual Studio の以下のバージョンは、InstallShield Express Edition に統合することができます:

Visual Studio 2008
Visual Studio 2010
Visual Studio 2012
Visual Studio 2013

Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Express Edition に統合することができます:

Professional
Premium
Ultimate

ターゲット システムの要件

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最低要件を満たさなくてはなりません:

Windows XP
Windows Server 2003
Windows Vista
Windows Server 2008
Windows 7
Windows Server 2008 R2
Windows 8
Windows Server 2012
Windows 8.1
Windows Server 2012 R2

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

既知の問題

既知の問題の一覧は、ナレッジベース記事 [000017082](#) を参照してください。

法的情報

著作権情報

Copyright c 2014 Flexera Software LLC.All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera Software LLC およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software LLC からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software LLC によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software LLC が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本技術およびそれに関する情報のすべての複製は、Flexera Software LLC より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

フレクセラ・ソフトウェアが所有する商標および特許の一覧は、<http://www.flexerasoftware.com/intellectual-property> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商用用コンピュータ

ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212

条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202

条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。